

十三浜プロジェクト 2018

- 地産材・地域資源を活用した建築による地域間連携と協働 -



特定非営利活動法人 山の自然学クラブ

http://www.shizen.or.jp/tohoku/13hama_project.html



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2017

十三浜プロジェクト ～地産材の有効活用と地域活性化に向けた取り組み

山の自然学クラブでは 2011 年から石巻市旧北上町の十三浜地区において「地域の自然や資源を活用した活性化」「地産資源を大切に活用すること」「人の手によるものづくりに取り組むこと」などを目標に、地域のみなさん、各地の NPO 等のみなさん、そして日本工学院専門学校のみなさんと協力しながら活動に取り組んでいます。

このプロジェクトは、宮城県七ヶ宿で水源を守る活動をされている特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿さんと十三浜地区にご一緒させて頂き、十三浜/相川地区の小山清さん(故人)に受け入れのご協力を頂いて、始められました。



十三浜プロジェクト 活動の経緯と概要

2011 年夏期に津波の浸水地ではスギが多数立ち枯れ、伐採と有効活用が課題となりました。いろいろな方と連携・検討して、スギを伐採して現地で製材し、日本工学院専門学校建築科の学生さんが実習課程において材料として使用、現地で活用出来る作品を製作して頂くことになりました。まず 2012 年、十三浜の相川自治会のご協力を得て、試験的に実施しました。

2017 年までに毎年、仮設住宅の近くにあずま屋やベンチを、子育て支援センターの園庭に遊具やベンチ、柵などを、農地には物置や作業小屋、陽射しを避けられるあずま屋、浜の近くには物販等に使える屋台風の小屋、など、自治会のみなさんと必要なものを相談しながら製作し、現地へ設置して参りました。毎年少しずつ関連団体や地元のみなさんとの折衝を重ねながら、足を伸ばして活動範囲を広げています。

活動は地域のみなさんと交流をしながら、現地で活用できるものを製作することを目的とし、以下の手順で進めています。(1)学生や教員のみなさんが、現地のみなさんに役立つ、かつ、組立て・運搬が可能な作品をデザイン・提案。(2)その中からいくつか優良デザインを選んで設計し、建築物を製作。(3)活動の周知、首都圏での広報の目的を兼ね、学園祭で展示する。(4)その後一度解体して、後日現地へ運搬、組立てして、現地へ木材をお返りする。以上を一連の課程とします。さらに現地活動として(5)住民のみなさんの使用状況を確認し、改善の要望を伺って改修やメンテナンスをする、(6)地域のみなさんと季節の作業やイベントのお手伝いをするため、学生を含めたボランティアで継続的に現地活動を実施する、等の活動を 1 年を通じて行っています。

東京と十三浜・石巻等の現地、双方での活動を通じて地域間の人的交流をはかり、地域の活性化にも寄与する取り組みにしたいと思っています。



2018年の十三浜プロジェクト

十三浜地区 / 集団移転地からの樹木の引き取り

高台への住宅、施設移転が進む十三浜地区。活動当初からお世話になっている相川地区の移転地は2箇所に分かれています。造成中だった中地区も2017年度中に引き渡しを終えました。北地区では住み始めたお宅もあります。2枚は2016年10月撮影の航空写真で、石巻市復興交流センターに掲示されている事業経過報告資料を撮影させて頂きました。



造成中の相川中地区

引渡後の相川北地区



造成工事中の相川中地区



相川北地区の現地写真

このプロジェクトは、2011年、津波の浸水域に生えていたスギの立木が夏に枯れ出し、使えるうちに材を使いたい、と住民の皆さんから持ちかけられたことが活動を始めるきっかけとなりました。2012年には相川地区にて小山さんの山からスギを伐採していただき、譲っていただきました。また、長塩谷地区から伐採される海岸林のマツを頂きました。その後は毎年、工事・事業のために伐採される予定の樹木を教えて頂き、伐採する木を可能な形で引き取り、有効活用させて頂いて参りました。現地の状況等に応じて地域資源の活用をはかる活動として発展してきた活動です。2016年と2017年にはこのような移転地の一つ、相川の隣にある小泊地区の移転地周辺で伐採したスギを河北の製材所に製材して頂きました。工事箇所の紹介や手配を石巻市北上総合支所が、連絡や調整を自治会のみなさんが、伐採を宮城十條さんが、製材を福田材木店さんがお手伝い、ご担当下さいました。日本工学院の先生と学生さんと一緒に製材所を見学させて頂きました。素材の成り立ちに思いを馳せる、よい機会になってくれたことと思います。どこに生えていたか知っている木々を分けて頂けるのは本当に素晴らしいことです。無駄なくすべて、そして形を変えながら、使いたい気持ちが自然に強くなることと思います。



河北の福田材木店を見学



製材後日本工学院に届いた木材

おおたオープンファクトリーへの企画製作 / 東京と石巻を結ぶ

日本工学院専門学校では、これまでの八王子に加え蒲田校の建築学科で「おおたオープンファクトリー」に関連した活動を新しく検討しました。「おおたオープンファクトリー」は多摩川の下流に位置する日本有数の“モノづくりのまち”大田区の町工場を1年に1度、一斉に公開する取り組みです。新田丸エリア(下丸子・新田丸エリア)の工場公開などを中心とした日と、工場アパート(テクノWING、OTAテクノCORE、テクノFRONT 森ヶ崎)や工業専用地域(京浜島・城南島エリア)の見学オープンやバスツアーが企画される日との2日間を中心に広範囲でイベントが行われます。学生さんが「おおたオープンファクトリー」に必要と考えられるものを作ることで運営スタッフや工場の人たちと共同作業を経験してもらおうという考えで、その製作に十三浜の木材も使って頂き、イベントの終了後、工場や学校で使うものは使って頂く一方、一部の作品は素材のふるさとである石巻へ戻して頂きます。学生さんが工場の方から要望を聞き取り、製品の展示台やパネル台、ベンチや道案内のサインなどをイベントに合わせて製作、また製作した家具を関係者に見てもらってさらに改良するなどしたそうです。



「おおたオープンファクトリー」当日、工場アパート(テクノFRONT 森ヶ崎)などで活用して頂きました。そのまま使用していただくことになった什器などもあったようです。



現地への設置・石巻1)

数年間繰り返し、日本工学院で製作して下さった家具などを行き先、贈り先を増やして製作・対応し、現地へも何回かに分けて運びました。造成工事や道路工事などがたいへん多いほか、宅地造成が終わり、移転先に新しい家を建て始める方も多くなっているなど「固定して置いておく建築物(小屋や倉庫など)」を持って行き(使って頂き)づらくなっています。そのような事情もあり、最近は屋外に設置するものではなく、屋内で使って頂く棚など家具やベンチ、イベントなどで使って頂く台や什器などを中心に作ってお持ちしています。

相川地区にある子育て支援センターにはこれまでもベンチや遊具、外で使う棚などをお持ちしたほか、もともと使っている棚を改良させていただくことなどもしています。



現地への設置・石巻2)

復興まちづくり情報交流館（北上館）でも何度か作業させて頂いています。交流館は「街の将来像」「復興事業の進行状況」「地域の取組に関する情報」等を展示して頂くためできた施設で、震災前後の写真展示もあります。復興交流館ではご担当の方から物販などの時に使用できる、テーブルやベンチが欲しい、とのご要望を頂きました。現地で追加作業して組み立てました。テーブルの天板が軽自動車に乗せられるサイズに調整をしました。



交流館で地域の方が始めた「きたかみ手づくり市」がきっかけとなって、近隣のイベントやマーケットへの出店、出品等の活動が活性化しました。市内にある公園等でも月に一度程度、フリーマーケットに出店されているようで、私たちがお渡ししたテーブル等を使っていたら他店の方の目にも留まり、また作って下さい、と追加の注文連絡がありました。

日本工学院のみなさんが再度、製作に取り組んで下さり、再訪した際に追加版をお渡ししました、無垢の木目がきれいでした。嬉しいです。



建築の調整・メンテナンス・追加などの現地作業

この活動の現地活動で大切な仕事は以前持ってきたものを使って頂きやすいよう、また、使い続けて頂けるよう繰り返し手を入れていくことです。現地での設置・製作も5年目。以前持ってきたものを改修したり、増築したり、解体したり、また組み合わせて別のパーツに使ったりと作業を重ねています。使って下さるみなさんが補強したり別の活用方法を見つけて利用して下さいたりもします。このように繰り返し使い続けることができるのは木材の大きな利点でもあります。石巻市内であそび場を運営している「こども 感ぱにー（こどぱにー）」さんにお子さんが使えるサイズの板材や角材をばらした材からお渡しします。さらに細かくなってしまった木材は最後はかまどの燃料として使って下さるとのお話、解体などして発生した端材はそちらへ持って行くように整理仕分けをしてお持ちしました。

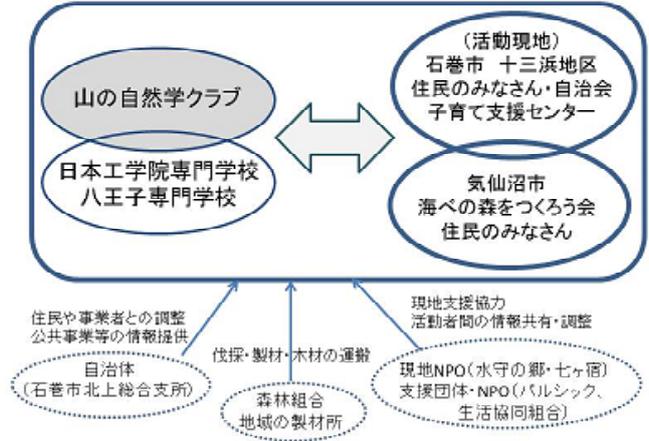


プロジェクトの実施体制とこれから

この活動は、多様な主体が献身的に関わってくださることで成り立ってきました（図）。現地のみなさん、そして柔軟に対応して下さる石巻市北上総合支所や森林組合・製材所、水守の郷はじめ活動仲間のみなさん、すべてのみなさまが同じ様に大切な役割を担ってきたと考えています。

このプロジェクトでは、毎年その時期に伐採される予定の樹木を教えて頂き、その木を可能な形で利用させて頂くことを基本に進めて参りました。

これまで、事業のために伐採する木を有効活用させて頂くことをしてきましたが、今後はそのような場所も少なくなることが考えられます。現地の状況等に応じてこれからも地域資源の活用をはかりながら活動を持続的に行いたいと考えています。



「ウッドデザイン賞 2017」の受賞

これまでの一連の活動、十三浜プロジェクトから展開を広げて取り組んでいる“カマタマルシェ”【KAMATA Marche】は「ウッドデザイン賞 2017」に、日本工学院専門学校建築学科 / 建築設計科が主体となつて分野：コミュニケーション分野、サブカテゴリ：教育・研修システムとして応募し、「ライフスタイルデザイン部門」において受賞しました。受賞作品は、毎年ビッグサイトで行われている「エコプロ 2017」で一部が展示されます。このプロジェクトからは展示用に使っていただいている家具をサンプルとして出展し、ここでも資料などを置いて、活用して頂きました。

ウッドデザイン賞2017 入賞作品一覧 2017.10.25				
コミュニケーション分野				
ライフスタイルデザイン部門				
受賞作品名	受賞団体名(主たる応募者、共同応募者)	サブカテゴリ	受賞作品の概要	写真
カマタマルシェ	日本工学院専門学校(東京)、(特非)山の自然学クラブ(東京)、仮設相川運動公園団地仮設自治会(宮城)	教育・研修システム	木材で地域イベントや被災地支援に必要な家具や展示用什器を制作するプロジェクト。被災地の高台移転地造成時に伐採される樹木から始まり→製材→木材加工→調整→イベント展示→要望聞き取り→家具の改良→引き渡しという流れをすべて体験することで木材の特徴や問題点を理解する。同時に地域貢献と被災地支援を行う。	

